

阪神さくら地区
団指導者 各位
隊指導者 各位

令和3年1月15日
地区コミッショナー
山本 浩介

緊急事態宣言下での対応について

このコロナ禍における困難な時期にもかかわらず、変わらずスカウト運動にお力を尽くしていただき、心より「感謝」申し上げます。

1月14日に兵庫県においても新型コロナウイルス感染拡大に対する緊急事態宣言が発令されました。これまで緊急事態宣言への対応について日本連盟からは「新型コロナウイルス感染への対応について（第11報）」（以下第11報、地区文書館401号）、県連盟コミッショナーからは「緊急事態宣言発令時の活動について」（以下県コミ文書、地区文書館405号）が発信されておりますが、改めてその内容を整理したいと思います。

まず、第11報において緊急事態宣言対象地域については

- ・すべての集会、会議の中止または延期（オンラインでの集会等は除く）
- ・上記集会には、文部科学省委託事業（ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび）も含む。
- ・活動自粛は、緊急事態宣言の期間と同じ2月7日（日）までとする。

とあります。これに従いまして「集会（たとえ感染対策をしたとしても）を実施してよいか」の問いには「緊急事態宣言の期間内はやめてください」という答えになります。公立学校が通常通りであるとか、部活動が行われているからというのは集会を実施する理由にはなりません。また諸会議についても同様で、オンラインの利用に限られます。

また、県コミ文書は、第11報を基本としていますが、次の2点に注目していただきたいと思います。

- ・野外活動を少しでも展開できるよう単独やバディでの活動の可能性について言及し、その例として、個人で行う清掃奉仕、観察散歩、体力づくりがあげられています。
- ・コロナ収束のために政府が発した宣言に対して協力し対応することをスカウトに教えることも我々のすべき教育のひとつとしています。

以上の日本連盟、県連盟コミッショナーの方針を受けて、緊急事態宣言下における対応について地区コミッショナーとしての考えをみなさんに伝えたいと思います。

①野外での活動が少しでもできるように単独やバディでの活動を模索しよう

感染拡大の状況で人が密集する場所への出入りは控えるべきですが、野外で新鮮な空気を吸うことはむしろ求められることでしょう。そういう野外での活動をできるだけ実践すべく、県連盟コミッショナーの示唆に従い単独やバディでの活動(スカウト1~2名)を模索しましょう。

ベンチャー部門は個人プロジェクトに取り組む機会です。ボーイ部門では班で分担して、ひとつの野帳を作成する、地域の防災マップを作る、街の謎を調査するなど。ビーバー・カブ部門では家族と一緒に取り組む地域内でのポイントラリーなど。アイデアを団会議で結集しましょう。

また、地区のラウンドテーブルの部門別ライングループでの情報・意見交換も図っていきます。ライングループにまだ加わっていない方は身近な人に招待してもらるか、部門担当の副コミッショナーまでお声かけください。

なお、これらの取り組みの際に班制教育や進歩制度のエッセンスをどう含めるか(たとえ不十分であったとしても)も忘れないよう努めましょう。また、前回の緊急事態宣言の際にオンラインを利用した集会などに取り組んだ隊もありました。野外活動ではありませんが、そういう試みも進めていただければと思います。

②感染収束に向けた国民全体の運動の一員だということを意識しよう

いつもと同じように集会に制約がかかるのはたしかに辛いことですが、これを逆手にとって公民教育の手段としたいものです。ルールに従うとか、市民としての務めを果たすとか、他人を思いやる心を育むとか、こういう訓育は今が最も効果的な時期かもしれません。国民全体の運動の一員だということは必ずスカウトに隊長よりお伝えください。また保護者にもこのような公民教育をしているのだということの説明を行ってはいかがでしょうか。

また、自身の感染予防のために、手洗い、消毒などの習慣づけ(大人も含めて)することは言うまでもありません。

③いつもいつもスカウトでいよう

仮に集会や活動がないとしても、それゆえにスカウトでなくなるわけではありません。「ビーバスカウトのやくそく・ビーバー隊のきまり」、「カブスカウトのやくそく・カブ隊の

さだめ」「ちかい・おきて」を日々に暮らしの中に落とし込むように隊指導者はメッセージを発信するなどして導きましょう。その際に家庭との協力は不可欠だと思います。保護者のみなさんにも「ちかい・おきて」の価値観をより深く知ってもらえれば良いですね。

また、我々大人も今一度「ちかい・おきて」を思い起こして、自らの行動に映したいものであります。

④誇りと自信、感謝を持つとう

「誇りと自信、感謝を持ってスカウティングを実践しよう」とは本年度のコミッショナー教育活動方針です。

この運動に関わる人は、単なる日常生活の余暇で行っている訳ではないと私は信じています。確かに人によって関わる量は異なるかもしれませんが、スカウトのためにという思いは変わらないはずで、その思いにより本運動に関与されているのだと考えています。

このコロナ禍において、私達は多くの変則的事項に遭遇し、その都度対応を強いられました。また、それは今後も続くかもしれません。強いられたことによる疲労感は当然あると思います。しかしそこで、ひとりひとりも、隊も、団も、地区も思考停止し、自粛だからという理由で出来ることを見出すチャレンジを怠ってしまっただけでは、将来この地のスカウティングの灯は消えていくことでしょう。そうならないために疲労感から私たちを奮い立たせるものは、「スカウトのためにという共通の思い」、スカウティングに対する「誇りと自信」、そして同じ思いの仲間相互の「感謝」ではないでしょうか。

1年前にこのような事態は想像だにしませんでしたが、コロナ禍への対応と本運動の未来に関して思いを馳せれば「誇り、自信、感謝」にすぎるしかないなあと思っています。

- ①野外での活動が少しでもできるよう単独やバディでの活動を模索しよう
- ②感染収束に向けた国民全体の運動の一員だということを意識しよう
- ③いつもいつもスカウトでいよう
- ④誇りと自信、感謝を持つとう

上記4本の柱を元にこの緊急事態宣言下でのスカウティングにご対応いただければと思います。団や隊で困っていることに関してはコミッショナークルーも一緒に考えてまいります。いつでも身近なコミッショナーまでご相談ください。

最後になりますが、一日も早いコロナウイルスの収束を祈りましょう。